

## 平成 14 年度 琉球大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

理・工・医・農・教育学部 平成 14 年 2 月 25 日

- 理・工・医・教育 [数学] 学部 ① ② ③ ④ 数 I・II・III・A・B・C(120 分)
- 農・教育 [理科教育・技術教育・学校心理学・児童教育・障害児教育・情報教育  
コース・教育カウンセリング A 群] 学部 ⑤ ⑥ 数 I・II・A・B(60 分)

①  $A$  を 2 次正方行列とする.  $A^2 + A + E = O$  が成立するとき, 次の問いに答えよ. ただし,  $E$  は単位行列,  $O$  は零行列である.

(1)  $A^3 = E$  を示せ.

(2)  $(A - E)(2A^2 + A)$  および  $(A - tE)(A^2 + tA + t^2E)$  を計算する事により, すべての実数  $t$  に対して  $A - tE$  は逆行列をもつ事を示せ.

②  $A, B, C$  の 3 人が自分の名前を書いたカードを各自 3 枚ずつ 1 つの箱の中に入れる. この箱の中から  $A, B, C$  の順にそれぞれ 1 枚ずつカードを引くとする. このとき, 次の問いに答えよ. ただし, 引いたカードは元に戻さないものとする.

(1) ひとりだけが自分以外の名前のカードを引く確率を求めよ.

(2) ひとりだけが自分の名前のカードを引く確率を求めよ.

(3) 全員が自分以外の名前のカードを引く確率を求めよ.

③  $1 \leq a \leq e$  とする.  $0 \leq x \leq 1$  の範囲で, 曲線  $y = e^x - a$  と  $x$  軸で挟まれた部分の面積を  $S(a)$  とする. このとき, 次の問いに答えよ.

(1)  $S(a)$  を求めよ.

(2)  $S(a)$  の最小値とそのときの  $a$  の値を求めよ.

④ 次の問いに答えよ.

(1)  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  のとき,  $\frac{2}{\pi}x < \sin x$  が成り立つ事を示せ.

(2)  $\lim_{r \rightarrow \infty} r \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx$  を求めよ.

**5** 次の問いに答えよ.

- (1) 複素数  $1 + 2i$  を解にもつ実数係数の  $x$  の 2 次方程式で,  $x^2$  の係数が 1 であるものを求めよ.
- (2)  $a, b$  を実数とする. 4 次方程式  $x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b = 0$  が  $1 + 2i$  を解にもつとき,  $a, b$  の値を求めよ.

**6**  $0 \leq m \leq 1$  とする.  $0 \leq x \leq 1$  の範囲で, 曲線  $y = x^2$  と直線  $y = mx$  で挟まれた部分の面積を  $S(m)$  とする. このとき, 次の問いに答えよ.

- (1)  $S(m)$  を求めよ.
- (2)  $S(m)$  が最小となる  $m$  の値と, そのときの  $S(m)$  の値を求めよ.

## 解答例

**1** (1)  $A^3 - E = (A - E)(A^2 + A + E)$  であるから,  $A^2 + A + E = O$  のとき

$$A^3 - E = (A - E)O \quad \text{ゆえに} \quad A^3 = E$$

(2)  $A^2 = -A - E$ ,  $A^3 = E$  であるから

$$\begin{aligned} (A - E)(2A^2 + A) &= (A - E)\{2(-A - E) + A\} \\ &= (A - E)(-A - 2E) \\ &= -A^2 - A + 2E \\ &= -(-A - E) - A + 2E = 3E \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} (A - tE)(A^2 + tA + t^2E) &= A^3 - t^3E \\ &= E - t^3E = (1 - t^3)E \end{aligned}$$

したがって  $t = 1$  のとき  $(A - tE)^{-1} = \frac{1}{3}(2A^2 + A)$

$$t \neq 1 \text{ のとき } (A - tE)^{-1} = \frac{1}{1 - t^3}(A^2 + tA + t^2E)$$

よって, すべての実数  $t$  に対して  $A - tE$  は逆行列をもつ. ■

- 2 (1) Aだけが自分以外の名前のカードを引く確率は、右の計算から

$$\frac{1}{28} + \frac{1}{28} = \frac{1}{14}$$

A	B	C	確率
B	B	C	$\frac{3}{9} \times \frac{2}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{1}{28}$
C	B	C	$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{2}{7} = \frac{1}{28}$

BまたはCが自分以外の名前のカードを引く確率もこれに等しい。

よって、求める確率は  $\frac{1}{14} \times 3 = \frac{3}{14}$

- (2) Aだけが自分の名前のカードを引く確率は、右の計算から

$$\frac{2}{168} + \frac{6}{168} + \frac{6}{168} + \frac{9}{168} = \frac{23}{168}$$

A	B	C	確率
A	A	A	$\frac{3}{9} \times \frac{2}{8} \times \frac{1}{7} = \frac{2}{168}$
A	A	B	$\frac{3}{9} \times \frac{2}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{6}{168}$
A	C	A	$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{2}{7} = \frac{6}{168}$
A	C	B	$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{9}{168}$

BまたはCだけが自分の名前のカードを引く確率もこれに等しい。

よって、求める確率は  $\frac{23}{168} \times 3 = \frac{23}{56}$

- (3) A, B, Cの3人が自分の名前のカードを引く確率は

$$\frac{3}{9} \times \frac{3}{8} \times \frac{3}{7} = \frac{3}{56}$$

求める確率は、これと(1), (2)の余事象の確率であるから

$$1 - \left( \frac{3}{56} + \frac{3}{14} + \frac{23}{56} \right) = \frac{9}{28}$$



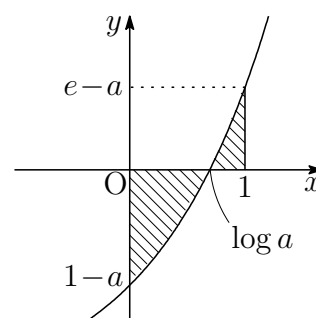
**3** (1)  $y = e^x - a$  と  $x$  軸との交点の  $x$  座標は

$$e^x - a = 0 \quad \text{すなわち} \quad x = \log a$$

$e^x - a$  の原始関数の 1 つを

$$F(x) = e^x - ax$$

とおくと



$$\begin{aligned} S(a) &= -\int_0^{\log a} (e^x - a) dx + \int_{\log a}^1 (e^x - a) dx \\ &= -\left[ F(x) \right]_0^{\log a} + \left[ F(x) \right]_{\log a}^1 \\ &= F(0) + F(1) - 2F(\log a) \\ &= 1 + (e - a) - 2(a - a \log a) \\ &= \mathbf{2a \log a - 3a + e + 1} \end{aligned}$$

(2) (1) の結果から  $S'(a) = 2 \log a - 1$

したがって,  $S(a)$  の増減表は  $(1 \leq a \leq e)$

$a$	1	...	$\sqrt{e}$	...	$e$
$S'(a)$		-	0	+	
$S(a)$		$\searrow$	極小	$\nearrow$	

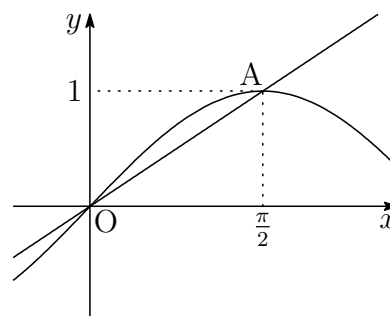
よって  $a = \sqrt{e}$  のとき最小値  $S(\sqrt{e}) = e - 2\sqrt{e} + 1$  ■

4 (1)  $f(x) = \sin x$  とすると  $f''(x) = -\sin x$

ゆえに,  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  において  $f''(x) < 0$

曲線  $y = f(x)$  上の 2 点  $O(0, 0)$ ,  $A\left(\frac{\pi}{2}, 1\right)$   
を通る直線を  $y = g(x)$  とすると

$$g(x) = \frac{2}{\pi}x$$



曲線  $y = f(x)$  は,  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  において上に凸であるから

$$g(x) < f(x) \quad \text{すなわち} \quad \frac{2}{\pi}x < \sin x$$

(2) (1) の結果から,  $0 < x < \frac{\pi}{2}$  のとき

$$-r^2 \sin x < -\frac{2r^2}{\pi}x \quad \text{ゆえに} \quad 0 < e^{-r^2 \sin x} < e^{-\frac{2r^2}{\pi}x}$$

$$\text{したがって} \quad 0 < \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx < \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-\frac{2r^2}{\pi}x} dx$$

$$\text{ここで} \quad \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-\frac{2r^2}{\pi}x} dx = \left[ -\frac{\pi}{2r^2} e^{-\frac{2r^2}{\pi}x} \right]_0^{\frac{\pi}{2}} = \frac{\pi}{2r^2} (1 - e^{-r^2})$$

上の 2 式から,  $r > 0$  のとき

$$0 < r \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx < \frac{\pi}{2r} (1 - e^{-r^2})$$

$\lim_{r \rightarrow \infty} \frac{\pi}{2r} (1 - e^{-r^2}) = 0$  であるから, はさみうちの原理により

$$\lim_{r \rightarrow \infty} r \int_0^{\frac{\pi}{2}} e^{-r^2 \sin x} dx = 0$$

■

- 5 (1) 実数係数の2次方程式が  $1+2i$  を解にもつとき、これと共役な複素数  $1-2i$  もこの方程式の解であるから、

$$(1+2i) + (1-2i) = 2, \quad (1+2i)(1-2i) = 5$$

よって、求める方程式は  $x^2 - 2x + 5 = 0$

- (2) 実数係数の4次方程式  $x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b = 0$  が  $1+2i$  を解にもつので、これと共役な複素数  $1-2i$  もこの方程式の解である。したがって、(1)の結果から4次式  $x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b$  は  $x^2 - 2x + 5$  を因数にもつ。

$$x^4 - x^3 + 2x^2 + ax + b = (x^2 - 2x + 5)(x^2 + x - 1) + (a-7)x + (b+5)$$

上式から  $a-7=0, b+5=0$  すなわち  $a=7, b=-5$  ■

- 6 (1)  $y = x^2$  と  $y = mx$  の共有点の  $x$  座標は

$$x^2 = mx \quad \text{これを解いて} \quad x = 0, m$$

$x^2 - mx$  の原始関数の1つを

$$F(x) = \frac{1}{3}x^3 - \frac{m}{2}x^2$$

とおく。  $0 \leq m \leq 1$  より、  $S(m)$  は

$$\begin{aligned} S(m) &= -\int_0^m (x^2 - mx) dx + \int_m^1 (x^2 - mx) dx \\ &= -\left[ F(x) \right]_0^m + \left[ F(x) \right]_m^1 \\ &= F(0) + F(1) - 2F(m) \\ &= 0 + \left( \frac{1}{3} - \frac{1}{2}m \right) - 2 \left( -\frac{1}{6}m^3 \right) = \frac{1}{3}m^3 - \frac{1}{2}m + \frac{1}{3} \end{aligned}$$

- (2) (1)の結果から  $S'(m) = m^2 - \frac{1}{2}$

したがって、  $S(m)$  の増減表は次のようになる。

$m$	0	...	$\frac{\sqrt{2}}{2}$	...	1
$S'(m)$		-	0	+	
$S(m)$		↘	極小	↗	

よって  $m = \frac{\sqrt{2}}{2}$  のとき最小値  $S\left(\frac{\sqrt{2}}{2}\right) = \frac{2-\sqrt{2}}{6}$  ■

